



紙袋と母

光浦靖子

母がたまに私のマンションに来ては、捨てていくモノがある。紙袋だ。私は子供の頃から紙袋がとにかく好きで、とにかくためてしまつたのだ。ザ・オシャレな洋服屋のモノから風邪薬のロケットはいった薬屋のモノ、飛行機のエチケット袋なんでもかんでもだ。そして、このあいだの引越しの時も紙袋いっぱい紙袋を捨てられた。「何これ？ いらんでしょ？ 捨てるよ」「あー、捨てちゃダメ！ 大事なモノなの」「誰が見てもゴミにしか見えんよ、こんなもん、引越し屋さん持ってってもらうの体裁悪いわ。トラックだっていっぱいなの」「やーん、いかにてえ。30を越えたい大人が子供のようにこねた。しかし、「あ、かまいませんよ」と汗をかきかき

笑顔で仲裁にはいる引越し屋さんを見たら、「これ以上こねる事が体裁悪く、私はしぶしぶ諦めた。母はなかなか譲らない性分で、説得するのに半日はかかる。引越し屋さん、午後の仕事に間に合ったらどうか、何度が時計をチラチラ見ている。大人として、諦めるしかないでしょ。子供の頃、駄菓子屋の白い紙袋も集めていた。あの、カレーせんべいを買つて入れてくれる、ギザギザの切り口の、色気のない白い袋だ。私は真っ白いままのが欲しかったのだが、なかなか手に入らなかった。おじさんが渡す時、袋の上からせんべいを挿んで渡すものだから、おじさんの指の形に黄色くカレーの染みが付いてしまつたのだ。いくら私が袋の上の方をそっと挿んで受け取るのが、いくら私がつまみせんべいを取り出そうが、染みが付いているのだ。私は妙な恥ずかしがり屋で、「袋、別にちよつだい」とは、死んでも言えなかった。「これにちは」と言つておじさんに、「これにちは」と返すことすら恥すかしくて、ただたがずく事しかできなかった、それほど恥ずかしがり屋だったのだ。「まじな事といえや、明日こそは染みが付いていない奇跡が起きますように」と祈るだけだった。当然家には染みの付いた袋ばかりが集まっ



光浦靖子(みつうら・やすこ) 1971年愛知県生まれ、東京外国語大学インドネシア語学科卒業。在学中、92年、幼なじみの大久保佳代子とコンビ「オアシス」を結成し、芸能界へデビューする。『めちやイケてるッ!』(フジテレビ系)、『アッコにおまかせ!』(TBS系)などに出演。著書に『みつうら』、『つづら』で反骨文。

た。もちろん、母に怒られた。「なんで汚いモノとして置くの！ もう捨てるよ」と。
 小6の頃、初めて東京メトロ有明線に行つて、おみやげ売り場の紙袋を見た時は度肝を抜かれた。え？ こんなに可愛いモノがこの世にあったの？ と。当時は、といつか、うちの田舎にはないレベルの高さだった。この紙袋が欲しい！ 子供ながらに知恵を働かした。とにかく安いモノを沢山買い、1個ずつ包装して持ち帰った。こうすれば沢山の紙袋が手にはいる。そして店を出るとすぐに中身を取り出した。セロテープはそっとはがし、折り目はきれいにのはし、紙袋たちを大切にバックに……そういえばその時も母に怒られた。「何してんの！ そんな事、家に帰ってからはいい」と。今さらながら気が付いた。私の紙袋集めは常に母との戦いだったのだ。この戦い、まだまだ続くんだろうな……。

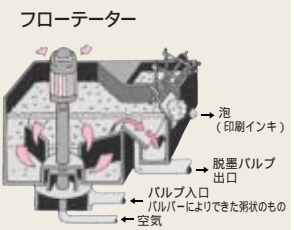
PAPER Q&A Vol.7

Q. 古紙からどうやってインキを取り除くのですか？

A. “脱インキ”という処理を行っています。

古紙の再生工程は洗濯の原理に似ています。巨大な洗濯機のような機械(バルバー)に古紙を入れ、水で攪拌すると、古紙は繊維に戻ります。そこで異物やゴミを取り除き、インキを除去して漂白すれば再生工程は終了です。

インキを分離するには、多量の水でインキを洗い流す「洗浄法」と、泡を立ててその表面に汚れを付着させ、泡と一緒に取り除く「フローション法」があります。水や薬品が少なく、後者の方が脱インキ効果も高く、その役割が期待されています。またバイオテクノロジーを利用してインキを消す方法も研究中です。



ここで、空気と一緒にかき混ぜ脱墨剤で印刷インキを泡としてとります。



次回は12月2日号、鴻上尚史さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Yohei Maruyama